



## 《28名の盛会だった花見会 報告》

日時：4月6日（土）午後3：00～  
会場：犀川河畔「レギャン」

4月6日15：00より犀川河畔「レギャン」にて花見会を開催しました。

【参加者】：山田/不破/蛭子/中田/佐藤/大坪/吉田/紐野/中城/松岡/山崎/朝日/周藤/小幡/池田/加藤/堀野/松下/川端/森川/中村、 会友で杉本/佐竹/武内/中嶋/岡田/野崎、そして越前龍馬会前田会長、計28名でした。更に途中で衆議院議員小森卓郎氏が顔を出されました。

先ず花見を行いました。桜を鑑賞しながら室生犀星ゆかりの雨宝院や芭蕉の碑がある犀川大橋ほとりを散策しました。

そして蛭子会長挨拶の後、松下敏之氏による『交通よもやま話 ～徒然なるままに』を拝聴しました。

自転車のヘルメット着用から始まり、交通違反の速度、交通事故の死亡者数・原因（認知ミスが多いこと）、警察取り締まりにおける考え方、「見直し」の重大性、事故を起こすと民事がいつまでも続くことなどを愉快に解説されました。

ここでレジメを配布されました。「よもやま三大づくし」という講演の内容に関係した「交通安全3Eの原則」「トヨタの3Sドライブ」「踏切3原則」「道路交通法の目的」「交通事故の3大原因」「自動車運転の3セット」「交通事故の3つの責任」が記載され、また多くの「3」にかかわる事項を列挙されました。その中には幕末や石川県に關係する内容もありました。

最後に「私の3大」とし「シートベルト三点締め音頭」を全員に演じさせ大いに盛り上がり終了となりました。楽しい話の中に交通にかかわるシビアな警告も含まれておりました。ありがとうございました。

次回は川端さんによる損保關係の講演を予定しております。

その後、小幡氏がオーナーであるレギャンにて懇親会を行いました。犀川河畔の桜を鑑賞しながらインドネシア料理に舌鼓を打ちました。ノンアルコールを含めいろいろなビールや酒類を堪能しました。



## 《全国龍馬社中近畿北陸ブロック会議 兼 北陸三県龍馬会交流会兼ブロック大会》

日時：9月21日（土）（福井）  
会場：福井県織協ビル  
講演：福井県歴史活用コーディネーター  
後藤ひろみさん、

演題：北陸新幹線福井開業記念  
「国際港を持つ越前～だから出来た〇〇〇〇～」  
（予定）

二次会会場はここより徒歩2分の「pub樽」。  
会費：¥8,000円

## 《36回龍馬 World in 和歌山》

### 「龍馬と宗光 未来への伝言 一和魂、紀州和歌山にあり」

日時：7月13日（土）和歌山城ホール

12:30 受付開始  
13:30 開会  
14:40 基調講演  
16:00 パネルディスカッション  
18:15 交流会

（ダイワロイネットホテル和歌山）

7月14日（日）/15日（祝） エクスカーション

- ① 南紀熊野三山巡礼
- ② 高野山
- ③ 南紀白浜
- ④ 和歌山市 三社詣り、和歌の浦
- ⑤ 乗船体験&演奏会

## 《志士たちが活躍した長崎とは ㉑》

中岡慎太郎

坂本龍馬とともに京都近江屋で暗殺された中岡慎太郎。現在京都霊山護国神社で龍馬の墓に隣接しとともに眠っている。

彼は生涯に二度長崎に来た。一度目は慶応元年（1865）薩摩藩船胡蝶丸で薩摩に向かう途中長崎に寄港した。この時の航海の目的は西郷隆盛を薩長同盟の席に連れていくことであった。

二度目は慶応3年（1867）3月薩摩から茂木（薩摩が長崎で基地にしていた港）に着き、海援隊士と面談、そして時津から大村に向かった。

大村藩を倒幕側に向かわせようとしていた大村藩士渡辺清・昇兄弟と会った。それから3か月後、渡辺兄弟は藩内を勤王倒幕で固め新精隊を組織し派兵した。

そして戊辰戦争で活躍し、明治2年大村藩は新政府より薩摩、長州、土佐に次いで3万石の恩賞が与えられた。

中岡慎太郎といえば脱藩の罪を許され慶応3年7月陸援隊を組織した。そして10月大政奉還が成った。しかし11月龍馬とともに暗殺されてしまった。

慎太郎は天保9年(1838)土佐安芸郡に大庄屋の長男として生まれた。龍馬の3歳年下である。

安政元年(1854)真崎哲馬に従って歴史を学び、翌年武市半平太の道場で剣を習い始めた。文久元年(1861)武市が首班の土佐勤王党に加盟した。

翌年長州の久坂玄瑞などと松代の佐久間象山を訪ね議論をした。文久3年(1863)に藩主の山内容堂は藩内攘夷派を弾圧しはじめた。武市半平太はもちろん多くの土佐勤王党のメンバーが投獄された。

中岡慎太郎はその中で脱藩し長州へ至った。そこでは京都から追放されていた公家の三条実美などの警備を担当した。元治元年(1864)7月の長州藩による京都に攻め入った禁門の変にも参加したが破れている。

翌月長州藩は攘夷を実行した。つまり下関でイギリス・アメリカ・フランス・オランダ艦隊を攻撃したが反撃を受けた。慎太郎は彼らとの力の差を思い知り開国による富国強兵に舵を切った。

そして幕府による第二次長州征伐の時期に薩長同盟を目指しはじめた。亀山社中の龍馬も賛同し慶応2年(1866)1月京都薩摩藩邸にて薩長同盟を締結した。

翌年(慶応3年)慎太郎は京都にて土佐藩土佐藩幹部を西郷隆盛に引き合わせた。6月には土佐藩後藤象二郎は藩主山内容堂に大政奉還の構想を進言した。同時期、薩土盟約が結ばれた。

慎太郎は次に有力公家との提携をもくろみ、岩倉具視と提携し、龍馬とも会わせた。そしてついに陸援隊を結成した。最終的に龍馬の海援隊は海から、慎太郎の陸援隊は陸から土佐藩を援助する目論見であった。

しかしその後長崎におけるイカルス号事件や土佐藩内におけるごたごたで薩摩藩より薩土盟約が解消されてしまった。ところが意に反して10月13日京都二条城にて大政奉還が実現した。龍馬も慎太郎も感激してしまった。

11月15日京都四条近江屋にて龍馬とともに刺客に襲われ龍馬はほぼ即死、慎太郎は2日後に絶命した。

その後、二人の弟子たちは新選組や紀州藩を暗殺の犯人だと信じ復讐するが、そのままの流れで戊辰戦争に組み込まれ、生き残った者たちは明治に活躍する。薩長は龍馬の描いた計画とは別路線で武闘に入り同様に戊辰戦争に突入する。

土佐勤王党の同志によると「中岡は大の議論好きで、眼光は鋭く猛々しい感じであるが、実際の人となりは温和で色白で音声も普通であった」とのこと。

生前同志への手紙で「今卑しいと思われる者が明日は貴いかもしれない。君子になるか小人になるかは家柄にあるのではなく、君自らにある」と書いている。

志半ばにして暗殺されたが、自分の道信じ信念をもって突き進んだ人生であった。

参照：長崎新聞、ウキペディア 他



京都丸山公園、龍馬との銅像  
ウキペディア

## ●年会費納入のお願い

令和6年4月から来年3月迄の年会費：  
¥3,000-

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

## 【編集後記】

皆さま、今年も宜しく願います。心の中に常“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第40号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

\*\*\*\*\* 事務局\*\*\*\*\*

## 金沢龍馬会

会長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

[jitianxinfu@hotmail.com](mailto:jitianxinfu@hotmail.com)

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

[n-toshio@muji.biglobe.ne.jp](mailto:n-toshio@muji.biglobe.ne.jp)

## 金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa-ryomakai?sk=wall&filter=2>

